

## 生活援助論演習 I

科目到達目標: ① 看護基本技術に共通する感染予防・安楽確保・環境調整の知識・技術を習得できる。

② 看護援助の思考プロセスを理解できる。

③ 看護援助のための基本的機能の視点を理解できる。

科目責任者(所属教室): 奥田 玲子(基礎看護学)

連絡先: 教員室 TEL: 0859-38-6303 E-mail: reokd@tottori-u.ac.jp

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード				
1	10/4(木)	3	111	科目オリエンテーション 看護行為に共通する援助技術	奥田 玲子  深田 美香 笠城 典子 藤原 由記子 山本 陽子 青戸 春香	基礎看護学	・看護実践と看護技術のつながりについて理解する。 ・看護援助の思考プロセスを知る。 ・看護援助のための基本的機能の視点(環境整備、コミュニケーション、ホディメカニクス、倫理、安全・安楽)を知る。	看護実践、看護技術、 看護援助のため基本的機能 (環境整備、コミュニケーション、ホディメカニクス、 倫理、安全・安楽)				
2		4										
3	10/11(木)	3	実習室	感染予防を推進する技術 感染症を成立させる要素と成立過程 感染予防の基礎知識 衛生的手洗い・個人防護具の着脱			奥田 玲子	基礎看護学	・感染成立のしくみ、感染予防策の基本的な考え方を理解する。 ・衛生的手洗い、個人防護具着脱の原理・原則を理解する。	感染成立の要素 スタンダードプリコーション 衛生的手洗い、個人防護具		
4		4										
5	10/18(木)	3	実習室	効率的で安楽な動きをつくり出す技術 安楽な体位・ホディメカニクス			奥田 玲子	基礎看護学	・ホディメカニクスの基本原理を理解する。 ・ホディメカニクスを効果的に活用するための力学作用を理解する。	ホディメカニクス、 力のモーメント・作用・反作用・摩擦力 寝返り・起き上がり・立ち上がり・座る動作		
6		4										
7	11/1(木)	3	実習室	快適な環境をつくる技術 快適さを保つ構造 病室の環境と病床の整備  ベッドメイキング			奥田 玲子 深田 美香 笠城 典子 藤原 由記子	基礎看護学	・快適さを保つ環境の諸要素について理解する。 ・病室および病床の環境整備について理解する。 ・基本的なベッドメイキングの方法を習得する。	環境の諸要素、プライバシー 病室・病床の環境 ホディメカニクスの基本原理 ベッドメイキング		
8		4										
9		5										
10	11/15(木)	3	実習室	効率的で安楽な動きをつくり出す技術 安楽な体位の保持・体位変換			奥田 玲子 山本 陽子	基礎看護学	・基本的な体位の種類と特徴を理解する。 ・安楽な姿勢を保持するための方法を理解する。 ・ホディメカニクスを効果的に活用した体位変換の方法を習得する。	体位に亘る圧迫部位、体圧分散 安楽な姿勢保持の原則 ホディメカニクスの原則		
11		4										
12	12/12(水)	3	共C51 (湖山)	食事・栄養摂取を促す技術 食事に関する生理学的メカニズム 食事と栄養に関する基礎知識 栄養状態のアセスメント			奥田 玲子 深田 美香 笠城 典子 藤原 由記子 山本 陽子 青戸 春香	基礎看護学	・食事に関する生理学的メカニズムを理解する。 ・食事のノードに関するアセスメントの視点を理解する。 ・食事のノードの充足状態を対象者の情報からアセスメントし、必要な援助を判断する。 ・食べるにかかわる技術の基本的留意点をふまえ、対象者に応じた実施計画を立てる。	食事・栄養摂取、嚥下のしくみ、 栄養摂取の方法 食事のノード、情報のアセスメント、 必要な援助の判断、援助の実施計画、 援助の実施・評価		
13		4										
14	12/13(木)	3	実習室	食事・栄養摂取を促す技術 食事の介助 事例を用いた援助					奥田 玲子 山本 陽子	基礎看護学	・看護援助のための基本的機能(環境整備、コミュニケーション、ホディメカニクス、倫理、安全・安楽)	看護援助のための基本的機能 (環境整備、コミュニケーション、ホディメカニクス、 倫理、安全・安楽)
15		4										

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
16	12/20(木)	2	共C31 (湖山)	生命の徴候を観察する技術 バイタルサインの観察・測定 体温・脈拍の観察・測定 基本的な留意点	奥田 玲子 深田 美香 笠城 典子 藤原 由記子 山本 陽子 青戸 春香	基礎看護学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイタルサインを観察する意義を理解する。</li> <li>・バイタルサインに影響を与える因子について理解する。</li> <li>・体温、呼吸、脈拍、血圧を正確に観察・測定する方法を習得する。</li> <li>・対象者の状態に応じたバイタルサイン観察・測定の実施計画を立てる。</li> <li>・実施を評価し、より適切なバイタルサイン観察・測定の方法を検討する。</li> <li>・援助の前後でバイタルサインを観察・測定することの目的や必要性について理解を深める。</li> </ul>	呼吸・脈拍・血圧・体温の調節メカニズム、バイタルサインに影響する因子、バイタルサインの観察・測定 バイタルサインの観察・測定結果の解釈
17		3						
18	1/10(木)	3	実習室	生命の徴候を観察する技術 呼吸の観察・測定 基本的な留意点 血圧の観察・測定 基本的な留意点				
19		4						
20	1/11(金)	1	実習室	生命の徴候を観察する技術 体温・脈拍・呼吸・血圧の観察・測定 事例を用いた援助				
21		2						
22	1/17(木)	2	共C31 (湖山)	活動・運動を支援する技術 活動・運動の生理学的メカニズム 活動・運動のニーズのアセスメント 活動・運動を支援する援助				
23		3						
24	1/24(木)	3	実習室	活動・運動を支援する技術 車椅子・ストレッチャー 移乗・移送 基本的な留意点、事例を用いた援助				
25		4						
26		5						
27	1/25(金)	1	実習室	生命の徴候を観察する技術 血圧の観察・測定(聴診法)				
28	1/31(木)	3	実習室	活動・運動を支援する技術 車椅子・ストレッチャー 移乗・移送 基本的な留意点、事例を用いた援助				
29		4						
30		5						

教育ブランドデザインとの関連:2、3、4、5、7

学位授与の方針との関連:1、2、3、4

授業のレベル:2

評価:小テスト50%、振り返りシート50%

教科書: ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版

※到達目標・授業のキーワードを確認の上、予習・復習してください。